

事業所の概要表

( R5年 10月25日現在 )

事業所名	グループホーム四ツ葉					
法人名	株式会社 四葉					
所在地	松山市桜ヶ丘643番地2					
電話番号	089-951-4428					
FAX番号	089-951-4428					
HPアドレス	http:// www.yotsuba4165.com/					
開設年月日	17 年 6 月 24 日					
建物構造	<input type="checkbox"/> 木造 <input checked="" type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input type="checkbox"/> 平屋 ( 2 ) 階建て ( 1.2 ) 階部分					
併設事業所の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ( )					
ユニット数	2 ユニット		利用定員数 18 人			
利用者人数	17 名 ( 男性 2 人 女性 15 人 )					
要介護度	要支援2	0 名	要介護1	9 名	要介護2	2 名
	要介護3	3 名	要介護4	0 名	要介護5	3 名
職員の勤続年数	1年未満	3 人	1~3年未満	5 人	3~5年未満	2 人
	5~10年未満	4 人	10年以上	2 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 1 人		介護福祉士 7 人			
	その他 ( )					
看護職員の配置	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ( <input checked="" type="checkbox"/> 直接雇用 <input type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約 )					
協力医療機関名	・清水医院・味酒心療内科・かみおか歯科					
看取りの体制 (開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ( 看取り人数: 3 人 )					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	43,000 円	
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円	
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円 償却の有無 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	
食材料費	1日当たり	1,630 円 ( 朝食: 円 昼食: 円 )
	おやつ:	円 ( 夕食: 円 )
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等) <input type="checkbox"/> その他 ( )	
その他の費用	・水道光熱費	16,500 円
	・管理運営費	13,260 円
	・	円
	・	円

家族会の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (開催回数: 回) ※過去1年間	
広報紙等の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (発行回数: 3 回) ※過去1年間	
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	6 回 ※過去1年間
	参加メンバー ※□にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 市町担当者 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 <input type="checkbox"/> 評価機関関係者 <input checked="" type="checkbox"/> 民生委員 <input type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者 <input type="checkbox"/> 近隣の住民 <input type="checkbox"/> 利用者 <input type="checkbox"/> 法人外他事業所職員 <input type="checkbox"/> 家族等 <input type="checkbox"/> その他 ( )

# サービス評価結果表

## サービス評価項目

(評価項目の構成)

### I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

### II. 家族との支え合い

### III. 地域との支え合い

### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和5年12月5日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 10	(依頼数) 18
地域アンケート	(回答数) 0	

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

#### ※事業所記入

事業所番号	3870105040
事業所名	グループホーム四ツ葉
(ユニット名)	1階
記入者(主任)	
氏名	竹内 智子
自己評価作成日	R5年 10月 1日

<p>【事業所理念】※事業所記入</p> <p>◆健康 すべての人々の健康で心豊かな生活文化の向上を目指します。</p> <p>◆愛情 すべての人々の心豊かな愛情で、より良いサービスの提供を目指します。</p> <p>◆幸福 すべての人々の幸福を思い、常に相手の立場に立った心と行動を目指します。</p> <p>◆希望 社会に貢献し、社会の信頼を得て発展する、希望ある企業を目指します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入</p> <p>・13 フリー勤務の職員がドライブや利用者様のお小遣いで好きな食べ物や必要な物品を利用者様と買いにお連れするようにした。畑の野菜と一緒に収穫したりベランダを活用してのカフェも季節ごとに行っている。</p> <p>・17 利用者様のお誕生日に本人様が希望するメニューにしたり、季節の食材を使って利用者様が食べたいと思う料理に調理したり工夫している。何カ月に1回は料理教室を開催し利用者様と一緒に作る機会を作っている。</p> <p>・2 入居される前に教えて頂きたい事のアンケートを家族様に記入して頂き好みの食事や服装、髪型、生活リズムや趣味の項目もあり利用者様のより詳しい情報を知り得る事が出来ている。現在入居されている利用者様にも家族様に聞いたり本人様から伺った事は記録に残すことで共有が出来ている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>前回の外部評価実施後から「入居される前に教えて頂きたい事」シート(食事やおやつ、趣味や好きなもの、生活、入浴、服装、髪等)の項目について、以前の暮らし方の情報を家族に記入してもらい把握に取り組んでいる。重度の利用者の水分補給に難しさがあつたが、シートの内容から「シャワーベットのものが好き」という情報を得て、水分をシャワーベットの状態で支援したところ、水分が十分にとれるようになった。</p> <p>新たに、各ユニットに着取りの部屋を整備し、必要に応じて使用するにしている。</p> <p>家族に、リアルタイムかつ具体的な報告が行えるようSNSのコミュニケーションツールを活用しており、多くの家族が登録して利用している。</p>
---	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>										
<b>(1) ケアマネジメント</b>										
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人様の思いを聞き、希望や意向の把握に努めている。	◎		◎	日々のかかわりの中で知った利用者の希望や意向は、タブレット端末の申し送り共有している。前回の外部評価実施後から「入居される前に教えて頂きたい事」シート(食事やおやつ、趣味や好きなもの、生活、入浴、服装、髪等)の項目について、以前の暮らし方の情報を家族に記入してもらい把握に取り組んでいる。重度の利用者の水分補給に難しさがあつたが、シートの内容から「シャワーベットのものが好き」という情報を得て、水分をシャワーベットの状態で支援したところ、水分が十分にとれるようになった。	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	職員個人としての意見になるのではなく全体を通して本人様の視点で考えるように検討している。					
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族様から本人様がどういった暮らしや生き方をしたいのか話を伺い施設での生活や状態もLINEや面会時にお伝えしている。					
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	日々の中でも本人様がおっしゃられたことを記録に残し、全体に申し送りとして共有出来ている。					
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	自分自身だけで思い込みないように他職員にも意見を求め決めつけない様に努めている。					
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	アンケートやアセスメントを通して知り得たり、日々の中でも本人様や家族様から伺って把握している。			◎	入居時、家族等から聞き取った生活歴や趣味、生活環境、これまでのサービス利用の経過の情報をアセスメントシートに記入している。また、家族に「入居される前に教えて頂きたい事」シートを記入してもらって、本人のこれまで暮らし方についての情報を具体的に得ている。	
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	記録に残したり申し送りをしっかりと行っており現状把握に努めている。					
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	基本的な日常の流れ以外では個々に合わせた生活内容になっており自由に過ごされている。職員や他の利用者様とも関わりを持ちやすいや楽しさが持てる支援を心掛けている。					
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人様と話し合い何を求め必要かを聞き沿うように職員間で検討している。			○	事前に家族や利用者から意向や要望を聞いておき、タブレット端末内でケアマネジャーと担当職員が情報・意見交換(サービス担当者会議)を行い検討している。	
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	出来る事はして頂き、より良い生活が行えるように支援、把握に努めている。					
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人様の意向に沿った内容、プラン作りをしている。					
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	担当の職員だけではなく他職員や家族様からの意見も頂き作成している。	○		○	新たな取り組みとして、家族に「意向に関するお願い」(意向を聞く用紙)を計画見直し時期に送付して、意向を出してもらい計画に反映している。意向をさらに、今後は、利用者の意向をチームで支援していただけるような計画作成に工夫を重ねてほしい。	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	現在重度の利用者様は居られないが、その方が慣れた暮らしを理解するようにし過ごし易い対応を心掛けている。					
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	面会が少ない方も多く協力を盛り込むのが難しい方も居られるが、LINEを導入する事で電話連絡よりも日常の状況や写真を送りより詳細にどういった生活をしているか伝えられるようになっているので今後はLINEのことも計画に入れていきたい。					
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	縮小した介護計画をコピーしてタブレットに挟んでおりすぐに確認出来るようになっている。すぐに確認出来るようになっており把握・理解に努め入力をする事で共有出来ている。			○	介護計画(用紙)を確認しながら、タブレット端末の介護記録を入力している。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	対応した職員が具体的に記録を入力しており、他の職員もその内容を理解し支援に繋げている。			○	タブレット端末の介護記録に、介護計画に振った記号番号と支援内容を入力している。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	担当職員とケアマネを中心に機関を設けて内容の実施確認をするようにしている。内容は必ず更新前月に職員全員でその方についてカンファレンスを実施して検討している。見え易い位置に更新月なども一覧にして掲示している。			◎	ケアマネジャーが「更新一覧表」で期間を管理しており、6ヶ月毎に見直しを行っている。		
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	1ヶ月ごとで評価し、課題や現状の理解をしている。			◎	月1回、担当職員がモニタリングして、現状確認を行い記録している。		
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院や状態が変わった家族様、主治医に意見をもらい見直し現状に合ったものを作成するようにしている。			◎	目が見えなくなり、要介護度が変更となった利用者について見直しを行ったような事例がある。身体面のサポートだけではなく、音楽が好きなこともあり、耳で楽しめるように音楽を流すなど精神面のサポートにも採り入れた。		
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的な実施日を決めて会議を行っているが参加人数が限られることもあり、現在はパソコン上で全員が意見を話し合っただけで決定を行っている。職員全員で話し合いが必要とされる事案が発生した場合は話し合いの会議の場を設けている。			○	タブレット端末内でミーティングを行っている。職員それぞれに「利用者・行事・業務」に関して、話し合いたい内容を記入し、意見交換をして月末にまとめている。		
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	個々の意見が出し合えるようになったが最終決定など問題になった事の答えがハッキリと決まっていな事もあつての申し送りに記載するようにしている。				仕事の責任や義務について、全職員で意識統一する必要がある。管理者が職員を招集して緊急ミーティングを行った。管理者は、顔を合わせて話し合う会議の意義を感じていた。		
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	出来上がった議事録は回覧物として印刷され各自必ず印鑑を押す事で読めたかどうか確認をしている。今後会議を行えるように工夫していきたい所存である。				○	タブレット端末内で意見交換を行うため、欠席者はいない。すべての職員が内容を確認するしきみがある。	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	個人の入力ではなく大事な事共有しておきたいことは申し送りの欄がある為、それを用いて全員に伝わるように徹底している。	○		◎	タブレット端末の申し送りで情報共有している。すべての職員が内容を確認するしきみがある。		
<b>(2) 日々の支援</b>											
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	声掛けなどのコミュニケーションから一人ひとりの思いを理解し、なるべく叶えられるように職員間で協力をしている。特に散歩や買い物は出来る限り行えるようにしている。						
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつづけている。(選んでもらう機会や場をつくる。選ぶのを待っている等)	◎	その日着る衣類の選択や飲み物の選択、訪問バンの選択などその都度利用者様に伺う機会を作っている。				○	週に一回移動バン屋が来ており、事前に個々が好きなバンを選んでおくよう促されているようになっている。散歩時には、コースを利用者に選んでもらっている。おやつが複数ある時には、個々に選んでもらうようになっている。	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝・食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人ひとりのペースに合わせた支援をするように努めている。入浴時間は決まっておりますがタイミングによっては入りたくないとおっしゃられる方も居られるが無理強いはいないよう気を付けている。						
		d	利用者の活き活きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うろたえ)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	声掛けをする際興味のある話題から話す様に声掛けしている。テレビや季節、特別な日に合わせた話題提供を行ったり月に一度はイベントの日を作り皆様の楽しみを引き出せるようにしている。					12月には、家族宛ての年賀状づくりを支援している。個別の願いを叶える支援に努力をしており、種類が好きな利用者には、近々、セルフうどんでの外食を支援することを予定していた。	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	意思を伝えにくい方にもしっかりと声掛けを行い意思を伝えられるようにしている。						
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であらかじめ介護や誘導の声をしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	一人ひとりが持っている誇りなど傷つけないように、一人ひとりに合わせた対応をするように心掛けている。勉強資料でも学んでいる。			◎	回答なし	月1回、内部研修として、資料を回覧して、職員個々に感想等を書くしきみをつづけている。プライバシーや身体拘束に関する内部研修時に権や尊厳について学んでいる。タブレット端末内で、権利擁護委員会を行っている。法人全体で、丁寧な言葉づかい等を目標に挙げて取り組んでおり、管理者は、日々のケアの場面で捉えて、職員に話をしたり、年2回、職員が行う自己評価(人事考課シート)をもとに、面談を行ったりしている。	
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	入浴時はカーテンを閉めて周りから見えないようにし、声掛けにも気を付けている。排泄時等介助が必要な場合でも見守り時は外に出たりなど配慮をしている。						
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	必ずノックをして声掛けをしてから出入りするよう配慮している。					○	管理者やユニットのリーダーは、利用者に声をかけてから入室していた。
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	仕事で知り得た情報でも他へ漏らさないよう理解し徹底している。						
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教えるもったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	日常の中で洗濯物を一緒に畳んで頂いたり、干して頂く事もあり、その都度協力して頂いた時に感謝を伝える。歌の歌手が誰だったかなど向う事も互いに聞か合える関係を日頃から築いている。						
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	共に暮らしている事を理解し、支え合って過ごせることで安心して過ごせるように努めている。						
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)	○	リビングのテーブルを2組に分けており、仲の良い利用者様を隣席や近くで日頃から会話をしながら過ごしている。体を動かしたり頭を動かしたりイベントを通して様々な形で参加できるように工夫をしている。					◎	誕生日のプレゼントは、仲の良い利用者から渡ってもらうようにしている。「かゆい。かゆい。」という利用者にも、他利用者が「ここかな。ここかな。」という言いながら、気長にかゆいところを掻いてあげるような場面があるようだ。ユニットによっては、利用者の関係性などを踏まえて、2つのテーブルを離して設置し、テレビも別に設置してスペースをつくって対応していた。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルが起きる前に職員が間に入るようにし配慮している。						
12	馴染みの人や場所との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入居前に本人様のキーパーソンの方を中心に会話を伺うようにしており、入居後に家族様との関係などが分かる場合もあるがつかつた事は申し送り、本人様や家族様との支援に繋げられるようにしている。						
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	利用者様の自宅が近所の方などはドライブに行く際に立ち寄って庭の花を連れて行くこともある。コロナ禍のせいか知人や友人が訪れる事は減少しない。						
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	積極的にドライブや散歩の声掛けを行うも断られる人も多く同じ方ばかりになっている。ペランダや庭でおやつを召し上がって頂けるように工夫をしている。			○	回答なし	△	近くのスーパーやコンビニまでお茶菓子を買に行くことを支援している。履け付きのペランダを活用し、夏にそうめん流しをしたり、季節の良い時期にはおやつ時間を持たせている。今夏は、庭で花火をした。今秋には、畑で野菜を育てており、サツマイモも収穫した。3月には、裏の花や桜を見にドライブした。5月には、道の駅ふわりまでドライブした。現在、利用者から外出の希望等はあるようだが、職員の手不足によって支援が難しいような現状にある。サポートしてくれるような人はいないだろうか。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	職員や家族様以外の方は基本責任を伴えない為実施していない。外出は職員同伴が家族様が依頼されて了承を得てからとなっている。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	一人ひとりの状態の変化になるべく早く気が付けるように努めている。その原因を自分だけではなく他職員とも検討して取り除くケアを行っている。						
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	勉強資料を読んで理解をし、出来る事を支援し過ぎないように声掛けを大切にしている						
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	本人様のタイミングを見てその時々で出来る事が違ってくるが、その時々に合わせて見守ったり援助を行ったり、ご自分で頂けるように場面作りを努めている。	○		○	洗濯物たたみは、利用者の力量に合わせて参加できるように支援している。 おやつ(パン・中華まん・おはぎなど)を皆で手づくりして食べるような機会をつくっている。		
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	日々のコミュニケーションや本人様の思い、生活歴などから理解しようとしており、それぞれに合わせた楽しみを把握している。				10時のお茶の時間のお茶菓子(個人用)を、買いに行けるように支援している。 食前、食後にいただきます「ごちそうさまでした」とあいさつのかげ声をかけてくれる役の利用者がいる。また、テレビの近くの席の人は、食事が終わったらテレビを点ける役目になっている。 編み物をする利用者は、家族が毛糸や本を用意してくれており、時には、他利用者が作ってほしいと言うものを編んでくれることがある。編んでもらったポシェットを大事に使用している人がいる。		
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	月に1度はイベントを実施して重度な方も取り組めるような行事を考えている。一人ひとりの楽しみごとなどを理解するように努め、その人が日々の中で取り組めるように場面作りを行っている。	○	回答なし	◎			
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	帽子を被ったり化粧をされる方、プレスレットや指輪等身に付ける方も居られる。日々の生活の中から一人ひとりの身だしなみやおしゃれについて把握しようとして努めている。						
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	本人様の意向だけでなく家族様にも話を伺うなどして本人様の好みに整えられるように努めている。						
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	簡単に選択出来るようにしたり理解出来るような声掛けをしている。						
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を装飾するよう支援している。	○	寒い時は上着、暑い時は半袖など季節や気温に合わせて来て頂くように努めている。						
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	乱れや汚れはさりげないカバーを心掛けプライドを傷つけないように努めている。			○	回答なし	○	利用者は季節に応じた清潔な服装で過ごしていた。
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	本人様の馴染みのお店にはお連れできないが、訪問理容が来て下さり希望の髪型にして頂くように支援している。						長年同じ訪問理美容師が来てくれており、利用者との馴染みになっていて、本人の希望に沿ってカットなどして頂いている。 白髪を気にする利用者には、リンスで白髪隠しができる商品の使用を支援しており、本人は気にしなくなっているようだ。 衣類の補充が必要になった場合、家族と一緒に自宅に戻って、本人が納得いくものを持ち込めるよう手伝って頂いているケースがある。
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事は利用者様が一番楽しみにされており、メニューを決める事で考え料理をする事で指先を使うなどすべてにおいて大切な事を日常や勉強資料を通して学んでいる。					日常の食事は、配食業者から決まった献立で食材が届き、職員が調理している。利用者が食事作り一連のプロセスにかかわる機会はほぼない。寿司の献立の際には、すし飯を仰ぐ役をお願いしている。ユニットによっては、時々、「料理教室」「クッキングスタジオ」と称して、食事を利用者と一緒にしている。その際には、料理の得意な人の出番をつくっている。	
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	献立や食材は配食業者に頼んでおり、ほとんどの調理を職員が行っている。時々利用者様を交えて簡単な調理を手伝って頂くこともある。食事の Copp は利用者様によってはキッチンまで持参される方も居られる。				△		
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	下膳は職員が行っている。ランチョンマット畳みやお膳をお盆に乗せて頂くなど出来る事から始めていきたいと思う。						
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アセスメントシートや家族様からのアンケート、本人様から聞いたりして理解している。						
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	○	献立は配食業者から決められたものを作っているが、畑で収穫した物を使用して召し上がって頂く事もある。					△	業者の献立で食材が届くため、利用者の希望や昔ながらの味を探り入れることは難しい。味付けは、それぞれにアレンジをしている。畑で採れたプラチマを付け合わせにすることがある。 行事の折には、少し豪華なお弁当を取ったりしている。 あまり好きでないような献立の時には、事前に買って頂いた佃煮やカップラーメンを食べる人も居るようだ。
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	食べ易く、握みややすい形態にするなど食べる意欲が出るように工夫している。						
		g	茶碗や湯飲み、箸等使いやすいものを使用している。	○	本人様が使いなれた湯呑み、お箸などを入居時に家族様が持参して頂き使用している。行事の景品としてランチョンマットやCopp をプレゼントとして提供させて頂くこともある。				◎		茶碗やマグカップ、箸は入居時に持参してもらったものを使用している。また、個々の状態に合わせて事業所のものを使用している。
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員と一緒に食事を食べないが、ミキサー食で常に衣類を汚す可能性がある方は食事前のタオルを胸元にして頂き気が付いた時に拭かせて頂いている。汁物のお椀では飲みやすい方に軽いCoppなどに変更をして備えに合わせた提供をしている。					×	利用者の食事中、職員は、介助などとして、そのあとで持参した弁当を食べている。
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	その日の献立をお伝えしてから召し上がって頂くように心掛けている。また調理時の音や匂いもキッチンの傍までお連れして感じて頂くこともある。			○		○	入居時に家族に記入してもらった「入居される前に教えて頂きたい事」シートの情報を支援に活かしたような事例がある。重度の利用者の水分補給に難しさがあったが、シートの内容から「シャーベット状のものが好き」という情報を得て、水分をシャーベット状にして支援したところ、水分が十分にとれるようになった。
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	苦手な物がメニューにある場合は代替りの物を提供するなど工夫をしている。利用者様の水分量をチェックするようになり、1日の水分量が明確に理解できるようになった。						
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	決められた時間だけではなく、摂取出来るような時は声掛けを行います。また本人様の食べれそうなゼリーやお好きな飲み物を提供して工夫している。						
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	献立は配食業者にお預かりしておりカロリー計算はされている。栄養士の方からは直接アドバイスもなく、昼食・夕食でお肉が連続で続く場合などは職員で考慮してメニュー替えを行うこともある。						定期的な話し合いのような機会は持っていない。食事形態、味付けなどについては、その都度口頭で話し合っている。また、申し送りで見直ししている。
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理前に必ず手を洗っており、まな板や包丁などは熱湯消毒を行っている。手が荒れている職員は手袋を着用して調理を行うように指導している。								

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔内を清潔にする事による認知症に対しての知識など、施設と連携している歯科より毎月イラストで分かり易く説明した資料を配布して下さり学べるようにしている。				職員が口腔ケアの支援を行うような場合は、口腔内を確認して異常等があれば歯科医につないでいる。自分で行う人については、本人から訴えなどがあるようだ。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	口腔ケアは介護計画の中に盛り込む様にしており、毎食後に利用者様に口腔ケアを働きかけるように支援している。義歯は基本週に1回洗浄させて頂く為に確認をしている。全員の口の中までは見ていない為把握は出来ていないように思える。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	正しいケアについては直接学べはいいが、ひとりひとりに合わせて対応している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	基本義歯は研磨剤を使用せずに磨き毎食後に義歯を外される方にはケースに入れて頂いた後職員が仕上げ磨きをさせて頂いている。週に1回はポリドント洗浄を行っており義歯の状態を確認して破損などが無いか確かめている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	起床時、食後に職員が声掛けを行い洗面所に歯磨きセットを用意して置いて頂いている。自立されている方は自分で磨ける。拒否があった場合は無理強いせずうがいだけでもして頂くように声掛けを行っている。			◎	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄を失敗してしまう事は恥ずかしいと感じ、記憶にずっと残ってしまう物だと理解している。研修や勉強資料でも学んでおり本人様の立場でも考え配慮するように心掛けている。				日々の中で職員の気づきがあれば、その都度話し合っており、変更点や決定事項は申し送りして周知している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘は慢性的な運動不足や水分量の低下などから起こる事を学んでおり、便秘により心身に影響を及ぼす不快感から痔や痔瘻が無くならないとされる事を知っており、主治医とも相談をして下剤を調整したりと長期に渡らないようにしている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排便・排便の兆候等)	○	排便排便チェック表を作成しており毎日記録するようになっており個々の習慣やパターンを把握している。排便何日目で下剤を服用なども主治医から指示を頂いており、排便があった場合は見間違えないように蛍光ペンで印を入れるなども実施している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	本人様がトイレへ行きたいと要望される場合、トイレ誘導を行いお連れしている。一人ひとりに合った支援を心掛けている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	日常をよく観察して状態を把握し水分補給を促したり腹部マッサージをして排便・排尿が改善出来るように取り組んでいる。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	食前食後のトイレの声掛け、誘導を行いもし失敗されたとしてもそれに合わせて声掛けや他職員と連携をして対応している。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういった時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	一人ひとりのその時々状態を把握し、職員間でも検討をし家族様へ報告連絡相談を行い本人様に合わせた支援を心掛けている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人ひとりの状態を理解し、その方に合ったものを使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	ヨーグルトやバナナ・乳酸菌飲料などを家族様に持参して頂いたり、本人様のお小遣いから職員が購入し摂取して頂き便秘予防に努めている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	入浴は1日の流れで午前中に決まっているが、前もってイベントが予定されている時など可能な時は午後に入って頂くこともある。利用者様はまんべんなく入浴出来るように3日に1度のペースで入浴をされている。此処に合わせた時間帯や温度に支援している。	◎		◎	週に2~3回午前中の入浴を支援している。「入居される前に教えて頂きたい事」シートで利用者の以前の入浴の様子を家族に教えてもらっており、湯温等の希望を支援に採り入れている。浴室には、テレビが設置してあり、夏場は、高校野球を見ながら入浴するよう人がいる。一時間くらいかけて入浴する人が3名程度おり、個々のペースで入浴できるように見守りながら支援している。入浴剤を使用している。また、季節に応じてゆず湯やしょうぶ湯を楽しめるようにしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	本人様が好む石鹸やシャンプーを使用している。職員が本人様を見守る時も更衣室から声掛けを行いながらゆったりとくつろげるようにしている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来ることはなるべく本人様にして頂けるように声掛けをして促したり転倒をしないように見守りや適度な支えをして安心して入浴して頂けるように支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	声掛けの工夫だけでなく、他職員とも協力をしながら気持ちよく入浴して頂けるような雰囲気作りをして無理強いしなように気を付けている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタル測定はもちろんのこと状態把握に努めながら実施し、浴後の皮膚観察や水分補給、状態も確認をして行っている。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夕食が終わるとすぐに居室に戻って就寝される方や居室のテレビで好きな番組を楽しまれてから寝入ってしまう方などそれぞれの利用者様個別のパターンを把握している。				薬剤を使用する利用者については、睡眠の様子や日中の様子を医師に報告して相談しながら支援している。人形を大事にしている人には、就寝時には、一緒に寝る人形の目も閉じておくようになっている。照明を消すと眠れないという利用者には、眠ったことを確認してから照明を消すようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	利用者様がゆっくと休める環境作りを心掛けている。日中に体操をして体を動かす時間を作ったり、日中にベッドタイムやソファで休める時間を作ったりと生活リズムを整えて頂く取り組みを行っている。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	変わったことがあれば主治医に相談をしお試期間を設けてどのくらいの頻度で内服薬を服用するか支持を頂いている。			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	高齢の方が増え、食後にベッドタイムを取られる方も多い。居室でゆったりと身体を横にしてテレビを観られたり休まれている方も居られる。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	手紙のやりとりはながい、本人様から要望があれば家族様や友人に施設の携帯電話をお貸しして電話を掛けることもある。				系列の介護施設に入居する家族とテレビ電話ができるよう支援した事例がある。家族に、リアルタイムかつ具体的な報告が行えるようSNSのコミュニケーションツールを活用しており、多くの家族が登録して利用をしている。	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	昨年からの年賀状が廃止になったのをきっかけに、職員とメッセージを考え手紙を添えて大きな文字で書いたのを真似て家族様宛に年賀状を書いて頂いた。文字を書くのが苦手な方には好きな文章や絵を選んで頂く等本人様に協力動作を添えて頂く等支援を行っている。					
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	施設の携帯電話をお貸しする事で気軽に電話が出来るようになった。					
		d	届いた手紙や葉書そのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	届いたらそのままにすることなく、その日のうちに職員から連絡をしたり、そのまま利用者様がお礼の電話をする為に代わることもある。					
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	あらかじめ入居前に緊急時以外でもお掛けして大丈夫か伺っている。施設側から家族様に電話をした際に本人様とも話されるか伺い、会話をされる機会を作っている。					
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金は生活をする上で必要不可欠とされるもので手元に無い事に對して不安に感じられる方も居られる事をしっかりと理解している。使わなくても持っているだけで安心される方も居られるが、大抵の方は施設の金庫でお預りしている。					
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	希望される利用者様が居られる場合、スーパーやディスカウントショップなどにお連れして買い物をしていただくこともあるが、コロナ禍で一緒にお連れすることが出来ておらず職員が代行して買い物に行っている。					
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	失くしてしまうとトラブルに繋がることもあったり、希望がないからという思いからそうだんすることなどの支援が出来ていなかったように思う。					
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	お小遣いの使用に週に1回の訪問バンの購入や訪問美容で使用をさせて頂くことは入居時に説明している。					
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預り金で購入したいものなどを伝えることで同意を得ている。お小遣いを使用したら一人ひとりに出納帳に記入し残金が少なくなったら家族様へお伝えし補充して頂き領収書やレシートをその際にお渡ししている。					
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	今活用しているサービスにとらわれず他のサービスがある事等理解ケアに繋げていきたい。	◎				
<b>(3) 生活環境づくり</b>										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関は常に開放しており、季節ごとにインテリアや飾りなども変えている。駐車場には花壇や植木を配置して季節の花々を楽しんで頂いている。	◎	回答なし	◎	5月には、敷地内にこのほりを泳がせた。正月には、玄関前に大きい門松を飾った。駐車場は広く、玄関までスロープをつけている。プランターに花を植えて飾っていた。調査訪問日には、クリスマスに向けて敷地内の木々にイルミネーションライトを付けて夜間に光らせ楽しめるようにしていた。	
		a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁と子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設けがないか等)。	○	月ごとの写真を掲示したり季節に合わせた掲示物を飾っている。洗面所やカウンターなどに季節の花を生けさせて頂いたり邪魔にならない位置にひな壇や七夕の笹、クリスマスツリーなども設置している。リビングにはアルバムや歌詞本お手玉などいつでも触れるように置いている。	◎	回答なし	◎	共用空間の各所にクリスマスのかわいい小物を飾ったり、掲示したりして雰囲気をつくっていた。ユニット入り口のスペースの壁面には、職員が季節に応じて飾りつけをしており、リファローを置いて写真を撮ったりスペースに使用している。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	掃除機やミキサーなど音が大きい物を使用する際は事前に利用者様に伝えたり西日が入って眩しいときなどカーテンをしめてあげる。臭いが籠らないように換気扇を定期的に清掃スプレーを使用することもある。			◎	居間は、南側に面して日当たりが良く、窓の上部に日よけフィルムを貼り調節をしていた。加湿器や空気清浄機などを導入して室内の心地よさを保つような配慮をしている。気になる臭いや音は感じなかった。	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	母の日などで頂いた花を居室に飾って視覚や嗅覚などの刺激になっていると思う。季節行事に合わせてクリスマスツリーやひな壇など大きめの飾りも邪魔にならないように配置している。			◎	事務所はオープンで貼紙などはせず、書類等にも目隠しのカーテンを付けるなどしていた。居間の窓際にロッカーを設置しており、利用者の遊び道具などを見えるように置いていた。窓側と居室側の壁に文字盤がはさまった時計を掛けていた。また、時計の下には、白地に黒い太文字の大きなカレンダーを掛け、過ぎた日に×をつけていた。日めくりカレンダーも掛けていた。居間からは、ベランダに干している洗濯物が見えたり、窓から道路を走る車が見えたり、空が見えたりする。	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを生活して、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	本人様が使いたれたものがあつたり、自宅から以前から使われている小型のタンスや棚を持参されている方も居られる。	◎		○	本人の若いころの写真や配偶者の写真を飾っている居室がみられた。各居室に収納棚があり、排泄用品の部分にはカーテンを付けて見えないように配慮していた。	
		a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	施設の各居室には両面どちらから見ても分かるように表裏を付けて頂いたり、トイレの手洗いや洗面台の扉を付けて、分かり易くしている。手すりを活用しての移乗や移動などで安全に自立した生活が送れるように工夫が出来るようにしている。			○	居室の名札は遠くからでも分かるように立体的に表示をしていた。トイレの場所も遠くからでも分かるようにカラーのピクトグラムを付けていた。洗面所の鏡の上部にもトイレの表示とーを付けていた。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	b	利用者の活動意欲を喚起する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	リビングの際際に利用者様でも手の届く範囲に大きめの棚を設置しており、アルバムや歌の歌詞、料理本やお手玉・ボールなどの遊び道具がある。毎日見た瞬間を楽しみにされている方もおられる。テーブルなどに設置して利用者様自身が広告やチラシ、記事と分けてたざっている。急須は手元に置いていないが、いつでも飲めるように夏場はジャグレットを設置している。					
		a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられられない状態に暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけることも済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	一人ひとりの状況を把握したり、他職員と相談をするなど鍵を掛けない対応を心掛けている。鍵を掛けないで玄関にはセンサーを設置しており人の出入りが分かるようになっている。	◎	回答なし	◎	玄関やユニット入り口に鍵をかけるけない。ユニット入り口に、身体拘束排除宣言を明示している。3月に1回行う身体拘束、虐待防止についての内部研修時に勉強をしている。利用者の落ち着かないような状態がみられた時を捉え、管理者は職員に鍵をかけるないケアの大切さや身体拘束について話している。ひとりでお出かけする利用者には、職員が付き添い支援している。タイミングをみて、「おやつを買いに行きましよう」などと誘い、気持ちが落ち着いてからホームへ戻るよう対応に工夫をしている。	
29	鍵をかけるないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられられない状態に暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけることも済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	一人ひとりの状況を把握したり、他職員と相談をするなど鍵を掛けない対応を心掛けている。鍵を掛けないで玄関にはセンサーを設置しており人の出入りが分かるようになっている。	◎	回答なし	◎	玄関やユニット入り口に鍵をかけるけない。ユニット入り口に、身体拘束排除宣言を明示している。3月に1回行う身体拘束、虐待防止についての内部研修時に勉強をしている。利用者の落ち着かないような状態がみられた時を捉え、管理者は職員に鍵をかけるないケアの大切さや身体拘束について話している。ひとりでお出かけする利用者には、職員が付き添い支援している。タイミングをみて、「おやつを買いに行きましよう」などと誘い、気持ちが落ち着いてからホームへ戻るよう対応に工夫をしている。	
		b	鍵をかけるない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施設を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	季節の変わり目で落ち着きなくなる方や、夕方になると帰りがたくなる方などその方の傾向を把握して声掛けを行っている。居室に居られる時も所在確認を行っており、日中は居室を必ずユニットの出入り口にはドアを開けると鈴が鳴るように設置して出入りが音で分かるようにしている。					
		a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	一人ひとりの病歴などを書いたアセスメントシートや家族様から伺った把握している。日頃からの状態や心身の様子についてもいつもと違う場合は申し送り、早期発見出来るようにしている。					
30	日々の健康状態や病状の把握	b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	少しの気付きでも他職員に相談をし記録をするようにしている。利用者様のバイタルや状態はすぐに把握出来るよう申し送り確認ができ、周知している。					
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	かかりつけ医や施設の看護師に相談をしながら対応出来るようにしている。					
		a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	一人ひとりの病歴などを書いたアセスメントシートや家族様から伺った把握している。日頃からの状態や心身の様子についてもいつもと違う場合は申し送り、早期発見出来るようにしている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居前に何処の病院を利用して居られたかを伺い、希望される場合は家族様の対応と言う形で継続して医療を受けて頂けるようにしている。病院同士で情報提供をして頂くようにしている。	○			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入居前の契約時にかかりつけ医について決めて頂くようにしている。24時間対応となっており入居前の病院を希望される方は少なく施設と連携している病院にされる方が多い。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	合意を得られる話し合いを行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時に情報提供と共に本人様の生活行動が分かる施設独自で作成した個別援助マニュアルを渡すようにしている。本人様について病院から質問などがあつた場合は担当者以外でも答えられるようにしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	△	いつ頃退院予定かどの様な状態かを地域連携室の方と管理者が連携している。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	施設に常勤の看護師は不在だが、週に3回は看護師が勤務し状態確認を行っている。薬や医療についての相談もしておりかかりつけ医の病院には緊急時など24時間対応で看護師を通して医師とも連絡を行える体制を作っている。	○			
		b	看護職も訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	提携しているかかりつけ医は24時間体制で電話を受け付けて下さり、利用者様の状態によっては往診日だけでなく状態確認の連絡があり報告を行うようにしている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	バイタル測定や食事量、排尿や排便のチェック表がありいつもと違う場合や便がしぼり出していないなど状態に応じて相談を入れている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	服用している薬を理解し、少しの変化などにも他の職員や看護師、主治医などにも相談するようにしている。内服薬に変更があつた場合は家族様にも速やかに連絡を行っている。	○			
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服用する前や服薬時、飲み終わりにもしっかりと確認をしている。薬が変更された時など内服する薬などにも付箋を貼り、変更開始や終了をセットした職員以外にもすくに分かるようにしている。	○			
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日々の中で気を付けるようにし、他職員とも相談をして確認をしている。	○			
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居前から医療系系列の施設ではないので痛みや医療を伴わない老衰という形を取り以外は実施していないことを伝えて、主治医と家族様、職員と相談する形で実施出来るかなどをその都度話し合いを行っている。	○			入居時に重度化や終末期の支援について説明を行い、その後は、状態変化時に意向を聞き、方針を共有している。 この一年以内に協力医の変更があつた。状態変化時には主治医(協力医)の指示に沿つての対応となる。 新たに、各ユニットに看取りの部屋を整備し、必要に応じて使用することになっている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	緊急時の発生などについても入居前から書類として家族様へどう対応したら良いかを伺い緊急搬送するかなども決めて、医師から終末期が近付くと家族様の意向を相談され決めて頂くようにしている。看取りを実施出来るか、管理者から職員に聞き取りを行い全員で話し合いを持って決定している。	○	○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	基本は医療を伴わない老衰のみを行っており、痛みが常時見られた場合などは医療機関への転居とさせて頂いている。経験のない職員にも看取りの可能性が見られる時期になるなどのように対応するのを丁寧に伝え無理な行えないように精神面もフォローして頂いている。	○			
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	施設は病院で行う看取りとは違つたため、痛みを治療する等は行えない事を伝え24時間常時付き添うことが出来ない事も了承を得て納得をして頂いた上で行うようにしている。看取りが必要になる前から心身の状態を定期的に伝え食事量の変化なども伝えるようにしている。	○			
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	終末期が近付くと無理に食事は摂って頂かず、本人様が好まれる物や水分を主に摂って頂くようにしている。入浴も居室での清拭に切り替え必要場合は数名の職員で行うようにしている。居室に花を飾ったり内装を華やかにしたりと穏やかに過ごして頂けるように心掛け医師や家族様とも定期的な連絡を行うようにしている。	○			
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	コロナ禍でも終末期は面会を可能として、制限は設けずに家族様と利用者様が最後の時間をゆっくりと一緒にご一緒して頂くように連絡を行い看取れるようにしている。家族様にも食事や体調、心身の状態を定期的に伝えお話しされた事や医師が居られたことなども伝えられるようにしている。連日の家族様にも電話連絡を欠かさないようにしている。	○			
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肺炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強資料などから学んで理解に努めている。現在は特にコロナ対策として緊張感をもって取り組みを学び感染予防を実施している。	○			
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそつた対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	定期的に訓練を行っており、いつ誰がなつても対応出来るように周知している。	○			
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通して感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	インターネットや行政の取り決めをその都度印刷されて閲覧できるようにしており、職員全員が必ず確認するようにしている。変更があつた場合は職員全員が閲覧出来るように申し送りを行うようにしている。	○			
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	日々の中で気を付けて支援している。	○			



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>II. 家族との支え合い</b>										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	利用者様には担当職員を中心に家族様と連絡を行うようしており、可能な家族様にはLINEに登録して頂き日々の写真や状態を伝えたりその時の様子など細やかな部分までお伝え出来るようになっている。				家族の来訪時に、散歩に連れ出すようなケースがあるが、事業所としては、この一年間では、特には機会をつくっていない。  希望する家族には、SNSのコミュニケーションツールに登録してもらって、写真や動画でリアルタイムな情報を送っている。 また、毎月、担当職員が手紙を書いて本人の状況を報告している。疎遠な家族には、必要に応じて電話で報告している。毎週、面会に来る家族には、口頭でも伝えている。  毎月送付する書類に管理者からの手紙を同封して事業所の運営に関する情報(設備改修や職員の異動また、海外からの技能実習生の受け入れ)を知らせている。 水道光熱費の料金変更の際には、法人の方から同意書等の文書を送付した。 運営推進会議の報告書を全家族に送付している。  SNSコミュニケーションツールの活用に伴い、小さなことでも報告したり相談したりできるようになったことで、家族との関係が深まっている。家族からも気になることがあれば質問があったり、相談があったりする。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	コロナ禍ということもありなかなか食事作りや外出などの機会を作れなかったように思う。運営推進会議もお知らせしているが参加される方は少なく家族同士の交流は出来ていない。	◎		×		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	定期的な写真を送らせていただいたり、LINEで報告をしたりと工夫した対応が出来ていると思う。	◎		◎		
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	家族様との関係を理解することは出来ていると思うが、その先の支援は出来ていなかったように思う。					
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	コロナ禍により面会のシステムが変わるたびに家族様には状態と共に説明を行い理解の上意欲し面会や相談の面会に切り替えて頂いた。請求書と一緒に管理者が作成した四ツ葉たよりを同封させて頂き行事や設備改修、職員の異動や退職等その都度報告を行っている。	◎		◎		
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	状態に合わせて水分摂取の状態からの脱水の可能性や転倒や誤嚥など個々の状態での起こり得るリスクなどお伝えしている。予防策や対応策も話し合い検討を行うようにしている。					
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	LINEを活用するようになり、早めの対応をすることで気軽に相談や希望が伺えるようになった。面会時にも家族様に職員側から気になる事はないか伺うようにして気軽に話して頂けるように話しやすい雰囲気づくりを行っている。					◎
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時には必ず2名の職員が家族様と同席で津形で行い補足や何処を説明しているなどを一緒に確認してから行うようにして説明をし理解を得ている。重要な部分はしっかりと納得して頂けるように伝えている。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居に至る場合は先に転居先を確保した上で退居となっている。					
<b>III. 地域との支え合い</b>										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	開設当初から地主の方とは話している。近隣の店舗にも何か有事の際は協力を頂けるように日頃からの関係を大切にしておき工事などの際は説明を行っている。			回答なし	おやつを買いに行くと、周辺のスーパーやコンビニを利用している。 畑の世話をしている時に、犬の散歩をする人等と挨拶したり、話をしたりしている。時には、事業所に対する感想などを聞かせてくれるようだ。 5月に敷地内、こいのぼりを泳がせた時には、自由に写真を撮ってよいことを掲示した。 この一年間は、地域との交流の機会は少ない。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	散歩などでずれ違う方と挨拶をしている。地域の活動などは参加出来ておらず機会があれば積極的に交流に努めている。			回答なし		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	散歩などでずれ違う方と挨拶をしている。離された利用者様が居られ、その際に協力をしてくださった近所の方も居られた。					
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	施設の駐車場に季節ごとに鯉のぼりやイルミネーションを設置しており、近所の方や近くの回転寿司店のお客も立ち寄って子供さんと写真を撮りに来られたりされる。					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	近所を散歩されている時に挨拶を行ったり会話をさせて頂くが、中まで立ち寄られることは基本無い。					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナ禍なこともあり、外部との接触を控えている。					
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を頂ける働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー、コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近所のコンビニや薬局、スーパーなどは日頃から施設での買い物に使用させて頂いている。利用者様が好きなパンを食べられるように訪問パンを週に1度お願いをして届けて頂いている。					
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	コロナ禍なこともあり、しばらく開催出来ていなかったが今年に入ってから実施している。家族様の参加もお知らせは行っているが参加には至らず地域の民生委員や市役所の方だけの参加となっている。	○		△	令和5年4月から集まる会議を行っている。 地域包括支援センター、民生委員、時に松山市役所の担当職員の参加がある。 家族には、会議報告書を送付している。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	外部評価や目標達成が出来たか話している。また意見を言われたり質問された時なども議事録に公表している。			回答なし	行事報告、行事予定、入居状況、その他について報告している。 外部評価実施後は、目標達成計画について説明を行っている。 地域包括支援センターの担当者から感想や質問がよく出ており、「以前行っていた地区の事業所連絡会を再開してはどうか」との提案をきっかけに、管理者が名簿を作成して、地区の他事業所に呼びかけを行った。	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	あらかじめ家族様には請求書と一緒に日程や時間帯をお知らせした紙を同封しているが働いている家族様も多く参加が難しい方がほとんどである。				回答なし	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	職員は必ず理念カードを所持して業務に当たるようになっているが、全職員が意識をしているかは分からない。再度認識できるように取り組みが必要だと考える。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	ホームページやパンフレットにも記載はしているが、読んで下さっているかは不明である。	△	回答なし		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者、基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	社員全員が介護福祉士に合格できるように会社としてもモチベーションを上げられるよう取り組みを行っている。研修はコロナ禍になり外部に行くことは行わず業務時間内にオンラインで行えるものに変更になったが、利用者様との関わりや業務優先で取り組んでお集り中受講することは難しい部分も多い。				代表者はよく、事業所を訪れ、職員の話をしている。 「休もつか宣言」のポスターを掲示して、有給休暇を取りやすくしている。 また、就業終了時間15分前から業務が終わっていたら帰ることをすすめている。勤続年数毎に連休がプラスされる。また、今年から誕生日休暇を導入している。 今後も、全職員で理念を基に意識の合わせて取り組めるように、チームワークを育てていってほしい。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	アドバイザーの研修生は現場での仕事を覚えながら介護の基礎を二人で学んだりして同時進行で行っていたが、新入社員に対して業務を实地で教える中で研修生について理念について考える機会が減っている。教えられるベテラン職員に指導してもらい職員の成長に合わせて期間を設けるようにしている。教える側も再度相手に伝えるために指導の仕方ややり方を見直す機会にもなり学びを受ける機会にもなっている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	職員の体調や能力に合わせて職員の生活面も考慮し、夜勤の回数や後の仕事を振り分けて勤務を調整している。有給が無効にならないように本人の希望がない場合はまんべんなく振り分けて消化して下るよう勤務表を作成している。勤続年数が経った職員にはやりがいを保てるよう業務を経験できるようにしている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	×	コロナ禍で職員は外部の方とは出来るだけ接触しないように感染対策を行っている。研修も今後はオンラインでの開催になるので外部に出向くことは無くなり直接のやりとりは少なくなると考えられる。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	×	施設の改善としてフリーの職員を配置した事で時間の確保が出来て余裕ができる日も出来たが、新たに同系列施設が増えたことで人員の配置に負担が生じ、ひと月の間にほぼ毎日2人体制の日が続いたりと疲労感が生じた事もあった。新入職員も夜勤が予定よりも早く入り不安を拭き取れない部分もあった。	◎	回答なし	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃されることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	虐待について何が該当するかグレーゾーンも含めて問題も挙げられるなど、勉強資料を読み込むことで学びの機会を得ている。自立を促すとしてもケアを行わない事や、相手が不快で虐待と感じる事が虐待になってしまうことも外部研修を通して理解している職員もいる。				3ヵ月に1回行う身体拘束、虐待防止についての内部研修時に勉強をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	利用者様の外傷が見られた場合はいつ出来たのか、前回の入浴時などはなかったかを再確認し原因について話し合うようになっている。大きな事故に繋がらないよう外傷などや状態の変化が確認されたときはすぐに記録に残し職員全員が周知できるように申し送りを行っている。				
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	言葉遣いや利用者様に対する態度など職員同士でも注意をし合えるように気を付けている。職員と会話をする機会を設けており、職員の介護に対してや悩みなども聞ける体制を作っており年に2回は直接話し合う機会を作っている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強資料で理解している。転倒リスクがある利用者様が居られる場合は前もって家族様に相談している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	全員で話し合う機会は作れずスピーチロックを勉強資料で学び、言葉での拘束もある事を理解して、気になった時はその都度話し合いも行っている。				
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	言葉での拘束もある事を理解して気になった時はその都度話し合いを行っている。				
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	学ぶ機会がなく、理解出来ない職員が多い。質問された事に対して答えられない場合は管理者や代表者に相談に乗る。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	行政と管理者がしっかりと連携体制を築いている。職員は理解出来ない。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	各対処方法はマニュアルを作成しており、理解し緊急時に対応出来るように努めている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	勉強資料や実際に研修を行っている職員が多く身に付けている。日々の対応時にも考えながらイイトも行っている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットを作成し、他職員とも共有をし再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	リスクなどを他職員とも話し事故防止に繋げている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情マニュアルは書式として存在し、全員が閲覧出来るように回覧している。苦情が発生した場合はすぐに改善出来る物かどうかに関わらず上司に報告をし対応報告書としてまとめている。苦情は施設を改善させるための苦情と外部研修を通して認識できておしつかりと対応する事の大切さを学んでいる。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	現場ですぐに対応できる場合は速やかに行っている。1人で考えるのではなく他職員、管理者に相談をし手順に沿って対応している。また必要に応じて市町にも相談や報告を行う。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情以前に日頃からの家族様と職員の関係性づくりが大切なこともしっかりと学んでおり、大きな問題に発展する前に言っておけるように心掛けている。今後に向けての対策なども実施してそのあまみれにせずしっかりと伝えられるようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	利用者様や家族様に言われた事は必ず記録している。家族会ははしばらく行っておらず年に1回は行えるように努めている。	◎		△	利用者が運営に関して意見や要望を伝える機会は特につけていない。 家族からの面会時間やあり方の希望については、現在は、柔軟に対応をしている。	
		b	契約当初だけでなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	開設当初から玄関口に意見箱として設置しているが、今まで活用された事は無い。来所時に何か気になる事が無いかは伺うようにしているが、要望はほとんど見られない。				運営推進会議の報告書を送付する際には「会議で検討してほしい事や要望などございましたら連絡頂けますようよろしくお願い致します」と一文添えている。 運営推進会議に利用者や家族は参加していない。	
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	来所した時や電話連絡等で変わった事はないが必ず聞いて下さっている。					
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	年に2回は話をする機会を設けて下さっており、施設内の取り組みとして行事や朝の整備を行ったり、特別なことが無くても買い物散歩に行けるように利用者様が施設の内外で活動出来るように職員を配置して業務内に取り組みできるようにシフトの調整を行ったりしている。誕生日などのプレゼントを贈る特別メニューの食事に取っては前回は行っていない出来なくなってきたことを再開するようになった。	○			◎	管理者は、年2回の面談時、また、日々のケアの中やミーティング時に職員に職員の意見や提案を聴いて一緒に検討している。
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	職員全員が各自自己評価を行っており、出ていることと出していないことを見極めていく。					
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	外部や地域の方との取り組みが実施出来ないことも多いが、施設内内で取組めることは改善し事業所全体で取り組み努めている。					
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	コロナの影響で運営推進会議が出来ていなかったこともあり、家族様に正しく伝わっているかは分からない。	○	回答なし	○	外部評価実施後の運営推進会議時に、目標達成計画について説明を行っている。外部評価実施前には、前回の目標達成計画の取り組み内容を報告している。 家族には運営推進会議報告書を送付している。	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	議事録を作成して取り組みの成果を確認出来るようにしている。					
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	年に2回避難訓練を実施している。各マニュアルを作成し、いつでも閲覧出来るようにしている。各地方の災害などで改訂が必要と感したときは改正を実施している。原子力に関しては伊方から離れているために、今現在想定して行った事はない。新たに設備が増えたときは申し送りして周知するようにしている。					
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中や夜間を想定して訓練を行っている。マニュアル通りにはいかないこともあり訓練後は反省会や改善点などを話し合い議事録に残している。					
		c	消火設備や避難経路、保管している非常食・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	消火設備は定期的に業者様より点検して頂いている。非常食など備品は会社で準備保管しており、定期的に確認も出来ている					
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	避難訓練の際は消防署の方に来ていただき協力して頂いているが、他事業所や地域住民の方とは協力出来ない。	△	回答なし	△	年2回避難訓練を行っており、内一回(令和4年11月)は消防署の立会いのもとで行っている。 地域と合同の訓練や話し合う機会等は持っていない。	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	共同訓練は行っていない。機会があれば参加をしていき地域としての災害対策にも向き合っ協力していきたい。					さらに、いざという時に備え、地域と協力し合えるような体制づくりをすすめてほしい。また、家族アンケート結果をもとにして取り組みを工夫してほしい。
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	コロナ禍で外部の方を招いた研修や講習会といった開催は一切行っていない。いつも定期的に三津地区の広報が届くので認知症の事や相談のことなど簡易的に載せて頂く等の取り組みを行えば良いのではないかと考えている。					
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	近所の方で施設への入居見学や希望が見られた場合には施設が満所でもパンフレットや関連施設の情報を伝えたり施設内を見学して頂いたり、話を伺うように心掛けている。		回答なし	×	特に取り組んでいない。	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	コロナ禍ということもあり、面会以外は施設内には入られないが季節の飾りとして鯉のぼりやイルミネーションを設置した際には身に来られる方もおられた。					
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	アピリティーの受け入れは継続して行い、施設への就職に向けて実施出来ている。毎年地域の三津浜中学校からの職業体験を行っていたので今後も要望があれば受け入れ出来る体制を作り利用者様と外部の方とも関われる喜びを支援できるようにしていきたい。					
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	管理者が他の施設や関連機関とのやり取りを一括している。コロナ禍で地域のイベントなども実施出来ていなかったが今後は行えたらと思う。				○	地域包括支援センターと連携を図り、センターが取り組むアルツハイマーデーの活動に参加協力をした。地区の事業所連絡会の再開に向けて管理者が率先して取り組んでいる。